

おしえて!

わん[🐾]にゃん通信



2015/09/28 No.5

すっかり暑さも和らぎ過ごしやすい日が増えてきました。暑さで落ちていた食欲も戻り、秋の味覚も楽しみです。今回は食べ物の基礎となるフードのお話をしたいと思います。

ワンちゃんネコちゃんのフードにはいくつか種類がありますが、みなさんはフードの表示を意識してご覧になったことがございますか？

フードの種類

- ・総合栄養食：そのフードと水だけで必要な栄養がまかなえる
- ・一般食：他の栄養を補わないと栄養不足になってしまうもの
- ・間食（おやつ、ジャーキーやビスケットなど）：間食と水だけでは健康維持ができない別のもので栄養補給の必要がある
- ・栄養補完食（サプリメント）：一般食の補完を目的とするもの
- ・療法食：治療効果を期待して獣医師の指示のもと処方される症状や病気に合わせたフード



	長所	短所
①ドライタイプ	<ul style="list-style-type: none">・保存性が良い (密閉、遮光保存で約1カ月保存できる)・塩分や糖分は少ない・安価	<ul style="list-style-type: none">・水分が少ないので尿石症に注意 (特に猫)・抗酸化剤など保存料に注意
②セミモイストタイプ (ドライとウェットの間)	<ul style="list-style-type: none">・嗜好性が良い(犬)・保存性は約2週間	<ul style="list-style-type: none">・単純多糖類が多い・湿潤剤使用(プロピレングリコールは猫に危険)
③ウェットタイプ	<ul style="list-style-type: none">・嗜好性が高い(犬猫)・水分がとれる・消化率が良い	<ul style="list-style-type: none">・高価・開封後保存がきかない (冷蔵で2日前後)・塩分糖分多い

原材料などがきちんと表記されていることや、保存期間、保存状態などにも注意しましょう。

どんな保存料を使用しているか、購入時や自宅の保管時に缶が潰れていたり膨らんでいる、外に置いている(直射日光があたると劣化しやすく温度管理もできません)などに気を付けて下さい。

分量も一か月以内に食べられるサイズを購入するようにしましょう。



量のポイント

フードの種類や量はいくつかの点を考慮しなくてはなりません。フードの裏側の摂取量は統計のデータに基づいた平均的な数字なので、その子その子に合わせて考えてあげるのが大切です。

1. ライフスタイル

その子が普段どのような生活をしているかで量などは変わってきます。よく運動をするのなら多めにあげたり、タンパク質の多めの食事をあげても、太ったり栄養過多になる可能性は低いです。逆にあまり運動しない子に標準通りにあげると消費エネルギーより摂取エネルギーが多くなり太ってしまいます。

2. 年齢

成長の為にエネルギーが沢山必要な幼齢期と、代謝や運動量が落ちてしまいあまりエネルギーを使わなくなる高齢期ではあげる量も変わってきます。生後1年までは幼齢期（パピー）用を、パピーを過ぎたら成犬成猫用に切り替えてください。一般的に高齢（シニア）と呼ばれる7歳以降になったら量を減らすか高齢期用にかえてあげて下さい。

3. 避妊去勢をしているか

避妊去勢後はホルモンバランスが変化し食事量が約20%増えますが、消費エネルギーが約30%減ります。

4. 体質

太りやすかったり沢山食べても太りにくかったり、何かの病気を患いやすい（ミネラル分が多い食事は結石がしやすいなど）、病歴に適した食事が必要など、体質や病気に合った食事を選んであげることは大切です。

5. 栄養素

ワンちゃんネコちゃんに必要な栄養素が入っているのかも重要です。必要な栄養素は人、犬、猫で同じものも違うものもあります。必要な量も違うので購入時の成分表を見ることや、手作りの場合はきちんと栄養のことを学んでから与えるようにしましょう。



フードを食べない時は・・・

まずワンちゃんネコちゃんの特徴を説明します。

犬：雑食で温かくても常温でも食べる。間欠採食（食事と食事の間に時間をとる）で単独よりも仲間と食べる方が摂食量が増える。

猫：肉食で温かい物を好み、食に頑固で嫌いなものは食べない。新鮮肉で少量頻回の不断給餌（好きなときに好きな量を食べる）。



上記の特徴などをふまえて、食事をあまり食べない場合に改善できる点は…

- ・フードの温度 ・食べる場所に怯えていないか（特に猫。原因は様々）・食事前の運動（お腹が減ります）
- ・器の幅や大きさ（特に猫はひげが皿に当たるのが嫌いなので平皿がいいといわれています）
- ・器の種類（いつも使用している器が良いなど） ・視点、視座（ポジション、立場）、視野（範囲）
- ・適度な大きさ（大きすぎて食べ辛い） などがありません。

動物の嗜好性を決めるのは匂いと味だといわれます。犬猫の両方とも苦みが得意でなく、犬は甘味が好きで辛み（高塩分）が苦手ですが酸味は食べられます。猫も辛みは苦手で、甘味はわからず一部の酸味が嫌いです。他にも食べないからとすぐにフードを変えたりおやつを多く与えると、美味しいフードやおやつがでるまで食べずに待つということがあります。また、フードを置いたままにするといつでも食べれるからとその時に食べない場合もあります。そのような時はしばらく置いて、食べなければ片付けてしまいましょう。フードが出ているときに食べないと無くなってしまふことを意識させるのがポイントになります。食べない日が続くと体重が減るかもしれませんが、健康に支障がでない程度に行ってください。（猫ちゃんは絶食で脂肪肝になる可能性があり危険！）突然食欲が無くなることは病気の徴候（口の中が痛いなど）の可能性もあるのでよく様子を見て行って下さい。

シンドウ動物病院

